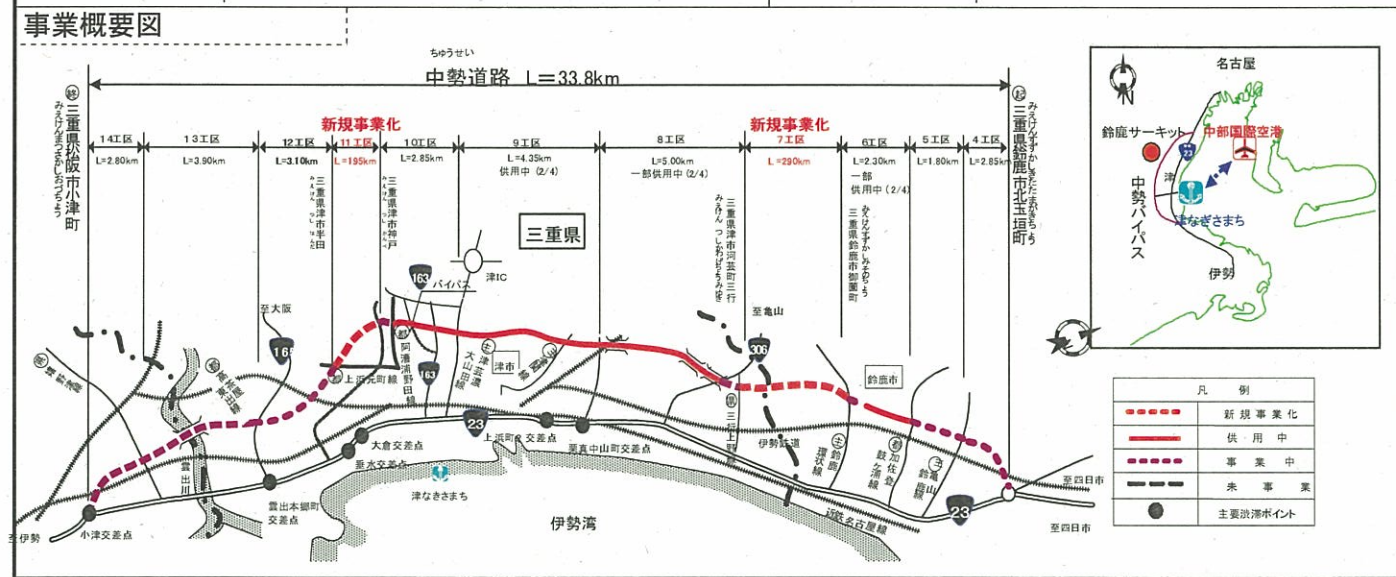


新規事業採択時評価結果（平成19年度 新規事業化箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：木村 昌司

事業の概要

事業名	一般国道23号 中勢道路(7工区、11工区)	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 中部地方整備局
起終点	7工区自：三重県鈴鹿市御園町 至：三重県津市河芸町三行	11工区自：三重県津市神戸 至：三重県津市半田	延長	4.9 km	
事業概要	一般国道23号中勢道路は、現道23号の三重県鈴鹿市北玉垣町から三重県松阪市小津町間の交通渋滞の緩和と交通安全の確保、「中勢北部サイエンスシティ」等の地域開発の支援、ならびに近畿道伊勢線インターへのアクセスの確保を目的として計画された延長33.8kmの幹線道路である。現道（一般国道23号）の交通負荷を軽減するために、接続する主要地方道等とのラダー状のネットワーク形成が急務であるとともに、7工区・11工区整備により中勢道路全線供用に向け、当該工区の早急な整備が必要である。				
事業の目的、必要性	<ul style="list-style-type: none"> ■現道の交通負荷の軽減：渋滞損失時間の削減、死傷事故率低減 ■緊急輸送道路の確保：代替路線の整備 ■観光地へのアクセス向上：「海上アクセス拠点」と「鈴鹿市」、「松阪市」の走行時間の短縮 ■地域開発の支援：中勢北部サイエンスシティ、河芸グリーンガーデン、太陽の街、グリーンヒル津 				
全体事業費	243億円	計画交通量	49,100台/日		



関係する地方公共団体等の意見	<ul style="list-style-type: none"> 平成17年 2月 三重県の野呂知事が定例2月県議会において、中勢道路を含めた高規格幹線道路の整備を10年後（遅くとも15年後）までに完成を明言した。 平成17年 8月 三重県国道協議会で「整備促進」の決議あり 平成17年10月 中勢バイパス建設促進期成同盟会において「未事業化工区の早期着手」の要望あり。 平成17年11月 中勢バイパス建設促進経済団体協議会からの「全線早期供用」の要望あり。 平成17年11月 三市三町の議長による議会からの「未事業化工区の早期着手」、「全線早期供用」の要望あり。
----------------	---

事業採択の前提条件	<ul style="list-style-type: none"> 費用対便益：便益が費用を上回っている。 手続きの完了：都市計画決定済
-----------	---

事業評価結果

費用対便益	B/C	10.7	総費用	208億円	総便益	2,231億円	基準年	平成18年	
	感度分析の結果	交通量変動	B/C= 9.7 (交通量-10%)	事業費	190億円	走行時間短縮便益	2,104億円		
		事業費変動	B/C= 11.9 (事業費-10%)	維持管理費	18億円	走行費用減少便益	94億円		
事業期間変動	B/C= 13.4 (事業期間-20%)			交通事故減少便益	33億円				
事業の影響	評価項目	評価	根拠						
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	◎	■全線供用により現道国道23号並行区間の渋滞損失が大幅に改善される。 【渋滞損失時間の改善】現道国道23号中勢道路並行区間の渋滞損失時間が改善 (7工区：現況 94万人時/年 11工区：現況85万人時/年) 【混雑度】混雑度が緩和し現道国道23号並行区間の渋滞が解消 (7工区：現況1.35⇒0.92 11工区：現況1.53⇒0.93)					
		事故対策	◎	■中勢地域の南北道路ネットワークが構築され、現道国道23号の交通緩和が図られ交通事故の削減が期待できる。 【死傷事故件数】中勢道路全線供用に伴い、現道国道23号並行区間の交通事故件数が大幅に減少 【事故危険箇所】中勢道路全線供用により、現道国道23号並行区間に存在する事故危険箇所6箇所の解消が期待される					
	歩行空間	-							
	社会全体への影響	住民生活	◎	■生活快適性の向上 (中勢道路の全線供用により、目的地への速度向上、交通事故削減、現道の沿道環境改善など住民生活の快適性が向上する)					
		地域経済	◎	■地域間のアクセス向上 (中勢道路全線供用により、県庁所在地である「津市」と「松阪市」のアクセスが現況の約25分から約5分短縮される)					
		災害	◎	■緊急輸送道路の確保 (第1次緊急輸送道路である国道23号が通行止めとなった際の地域の孤立化を防止)					
環境		◎	■CO2、NOX、SPM排出量の削減 (中勢道路が全線供用することにより現道国道23号の交通緩和が図られ、現道国道23号並行区間のNOX、SPMが約38%削減する。また中勢地区全体のCO2が約1.9%削減する。) ■騒音夜間要請限度をクリア (現道国道23号並行区間の夜間要請限度クリア7工区：現況74dB⇒69dB / 11工区：現況72dB⇒67dB)						
地域社会	◎	■地域開発の支援 (住宅宅地開発が行なわれている「河芸グリーンガーデン」「太陽の街」の連絡路として津市の地域開発を支援する)							
事業実施環境	○	地元住民からの強い早期着手要望がみられ、県知事も高規格幹線道路の早期整備を明言している。							

採択の理由

- 費用対便益が10.7と便益が費用を上回っているとともに都市計画手続きが完了していることから、事業採択の前提条件が確認できる。
 - 中勢地区における道路ネットワークの形成にあたり、7工区・11工区の開通は必要不可欠である。
 - 各事業評価結果をみても評価は概ね良好なものとなっており、特に「渋滞対策」「事故対策」においては大きな効果を発現すると判断ができる。
 - 地元住民、関係自治体からの早期着手要望もみられ、事業推進におけるハードルは高くないと考えられる。
- 以上より、本事業を採択した。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。